

「B&G 水辺の安全教室」プログラムへの期待

東京海洋大学大学院准教授 田村 祐司（監修）

日本の小学校が準拠する文部科学省小学校学習指導要領の体育科水泳領域では、「泳げる技能」に力点が置かれている傾向にありますが、水難事故における溺死者のうち8割以上は服を着た活動中に溺水しています。

こうしたことから、万が一落水したときは平泳ぎやクロールのような通常泳法で体力が消耗することを避け、背浮きで呼吸を確保し、できるだけ体力を消耗せずに浮いて救助を待つことが大変重要です。

そのため、イギリスやオランダなど水辺の安全教育先進国が注力してきたように、日本の水泳教育も「溺れない技能」にも焦点をあて、水難時の「セルフサバイバル教育」に、なお一層力を注いでいく必要があるでしょう。

その点において、平成22年からB&G財団が中心となって全国展開した「水の事故ゼロ運動」の活動成果のひとつとして、今回「B&G水辺の安全教室プログラム」が新たなウェブ教材として作成され、更なる水辺の安全教育の推進に繋がられた意義は大変に大きいと思います。

多くの市民や子供たちが水辺の安全に対する知識や技能を習得しながら、シュノーケリングやカヤック、釣りなど、魅力にあふれた海洋性レクリエーションを楽しめるよう、本プログラムを活かしていただきたいと思います。

そして、本プログラムが全国の学校やスイミングクラブ等における水泳教育の安全教育教材のモデル的存在になることを期待するとともに、将来的には文部科学省小学校学習指導要領の体育科水泳領域に、本プログラムをベースとした「溺れない技能」としての水辺安全項目が明示されることを願っています。